

## 動体の動作認識方法

- 基本動作の高精度認識（検索）が可能
- 認識（検索）処理するデータの量を大幅に低減可能

### ①技術分野

任意方向から観察した動体、特に人の動作を認識可能な動体の動作認識方法に関する技術です。

### ②発明の背景と目的

- ・ 動作を任意方向から観察する場合、対象動体の動作の認識精度を高めようとするれば、それに伴い動作画像も膨大な量となるため、データ量が多くなり、動作の認識のための処理時間が膨大になるという問題があります。
- ・ 目的は、観察方向によらずに、自動且つ高速に、対象動体の動作を認識可能な動体の動作認識方法を提供することです。

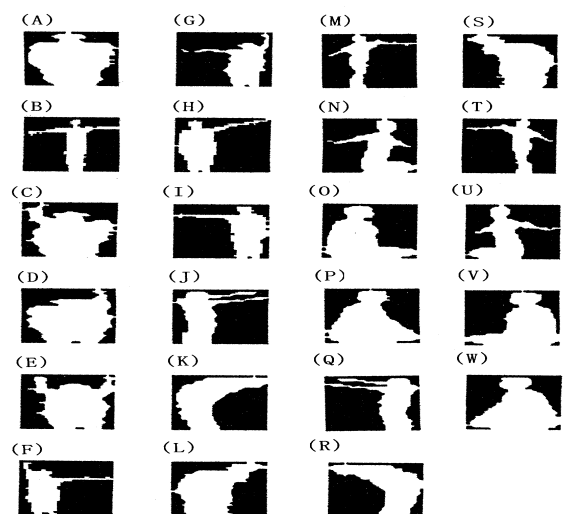
### ③発明の構成と効果

#### 構成

予め動体Aの基本動作ごとのフレーム画像データAが点で表示される固有空間データAを作成してデータベース化する固有空間データ作成工程と、対象となる動体Bのフレーム画像データBが点で表示された固有空間データBと基本動作ごとの固有空間データAを比較して、固有空間データBからの距離が最も近い固有空間データAを選び、動体Bの動作を認識する認識工程とを有する動体の動作認識方法であって、基本動作ごとの各フレーム画像データAは、動体Aに基本動作を行わせ、基本動作を行う動体Aを複数の画像入力手段を用いて多方向から撮影し、画像入力手段ごとに取得した連続する複数のフレーム画像にそれぞれ重みをつけた後、重ね合わせることで作成される圧縮画像から得られます。

#### 効果

連続する複数のフレーム画像に、それぞれ重みをつけるので、基本動作の認識（検索）精度が高められます。又、連続する複数のフレーム画像を重ね合わせて作成される圧縮画像を用いて、基本動作ごとのフレーム画像データを作成するので、認識（検索）処理するデータの量を大幅に低減できます。これにより、対象動体の動作を高速に認識できます。



静止姿勢の画像